令和５年度

危機的な状況にある言語・方言サミット

（与那国島大会）

資 料 集

令和５年 10 月 14 日（土）13:10～17:45

10 月 15 日（日）10:00～15:45

沖縄県与那国町　与那国町立久部良小学校

主催・共催　文化庁、沖縄県、与那国町、与那国町教育委員会、
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所、
国立大学法人琉球大学

目　　次

趣旨・後援　５ページ

日程及び登壇予定者　６ページ

“Atlas of the World’s Languages in Danger”（UNESCO2009）
で消滅の危機にあるとされた日本国内の言語及び東日本大震災の
被災地の方言　９ページ

危機的な状況にある言語・方言に関する文化庁の取組　１０ページ

危機の度合いの判定基準　１１ページ

消滅の危機にある言語・方言に関する施策の考え方　１５ページ

危機的な状況にある言語・方言サミット（与那国島大会）チラシ　１７ページ

【１０月１４日（土）】

オープニングアトラクション　与那国島の芸能　１９ページ

基調講演「『どぅなんむぬい辞典』から考えた言語継承と研究者の役割」
２３ページ

危機的な状況にある言語・方言の聞き比べ　３５ページ

危機的な状況にある言語・方言による表現披露　５７ページ

【１０月１５日（日）】

危機方言の現況報告　６７ページ

与那国中学校の成果報告　７５ページ

＊「アイヌ語の現況報告」の動画は後日、期間限定で公開いたします。

協議「方言辞典とかるた作りに取り組む」　７９ページ

ブース発表　８５ページ

大会宣言　８９ページ

【 趣 旨 】

我が国における言語・方言のうち，ユネスコが平成 21 年に発行した“Atlas of the World's Languages in Danger”で消滅の危機にあるとした 8 言語・方言及び東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の状況改善につなげるために，消滅の危機にある言語・方言に関する委託調査結果の成果や消滅の危機にある言語・方言を抱える各地域の取組状況等について広く知っていただき，文化の多様性を支える言葉の役割や価値について共に考える機会とする。

【 後 援 】

北海道、鹿児島県、八丈町、

公益財団法人アイヌ民族文化財団、沖縄県文化協会、

株式会社沖縄タイムス社、株式会社琉球新報社、

NHK 沖縄放送局、琉球放送株式会社、

沖縄テレビ放送株式会社、琉球朝日放送株式会社、

放送株式会社ラジオ沖縄、株式会社エフエム沖縄、

与那国町自治公民館連絡協議会、与那国町商工会、

一般社団法人与那国町観光協会、一般社団法人与那国フォーラム、

日本言語学会、日本方言研究会

【 日程 及び 登壇予定者 】

（敬称略）

１０月１４日（土）

13:10　開会式

〇オープニングアトラクション 与那国島の芸能　ダーナラシ、ミディ唄、ティンパイ

〇主催者・共催者挨拶　文化庁、沖縄県、与那国町

13:45　基調講演「『どぅなんむぬい辞典』づくりから考えた言語継承と研究者の役割」

信州大学　中澤　光平

15:00　休憩

15:15　危機的な状況にある言語・方言の聞き比べ

長谷川　等（津軽）、柾谷　伸夫（南部）、川上　絢子（八丈島）

鈴木　るり子（奄美大島）、田中　美保子（沖永良部島）、菊　秀史（与論島）、

座間味　栄一（沖縄本島（本部）、大城　栄子（沖縄本島（糸満））、

砂川　春美（宮古島）、東大濵　剛（石垣島）、

稲藏　まさの（与那国島（祖納））、崎枝　彦三（与那国島（比川））、

玉城　孝（与那国島（久部良））、関根　摩耶（アイヌ語（沙流））

16:00　休憩

16:15　危機的な状況にある言語・方言の表現披露

会話・唄・語りなど：関根　健司、関根　摩耶（アイヌ語（沙流））

二人芝居「こっただ面接　ある訳ァねえ」：長谷川　等（津軽）、柾谷　伸夫（南部）

キングイ「ドゥングトゥ」：与那国（前黒島　勇市、請舛　庄市）

17:45　終了

１０月１５日（日）

10:00　開会

10:05　危機方言の現況報告　国立国語研究所　山田　真寛

10:35　与那国中学校の成果報告　与那国町立与那国中学校

＊「アイヌ語の現況報告」は、後日、期間限定でインターネット上で公開いたします。

11:05　休憩

11:15　協議「方言辞典とかるた作りに取り組む」

進　行　：山田　真寛（国立国語研究所）

パネリスト：中澤　光平（信州大学）

田頭　政英（与那国方言辞典編集委員会委員長）

村松　稔（与那国町教育委員会）

上地　艶子（与那国町教育委員会）

譜久嶺　マリサ（与那国町教育委員会）

12:45　ブースアピール

13:00　休憩

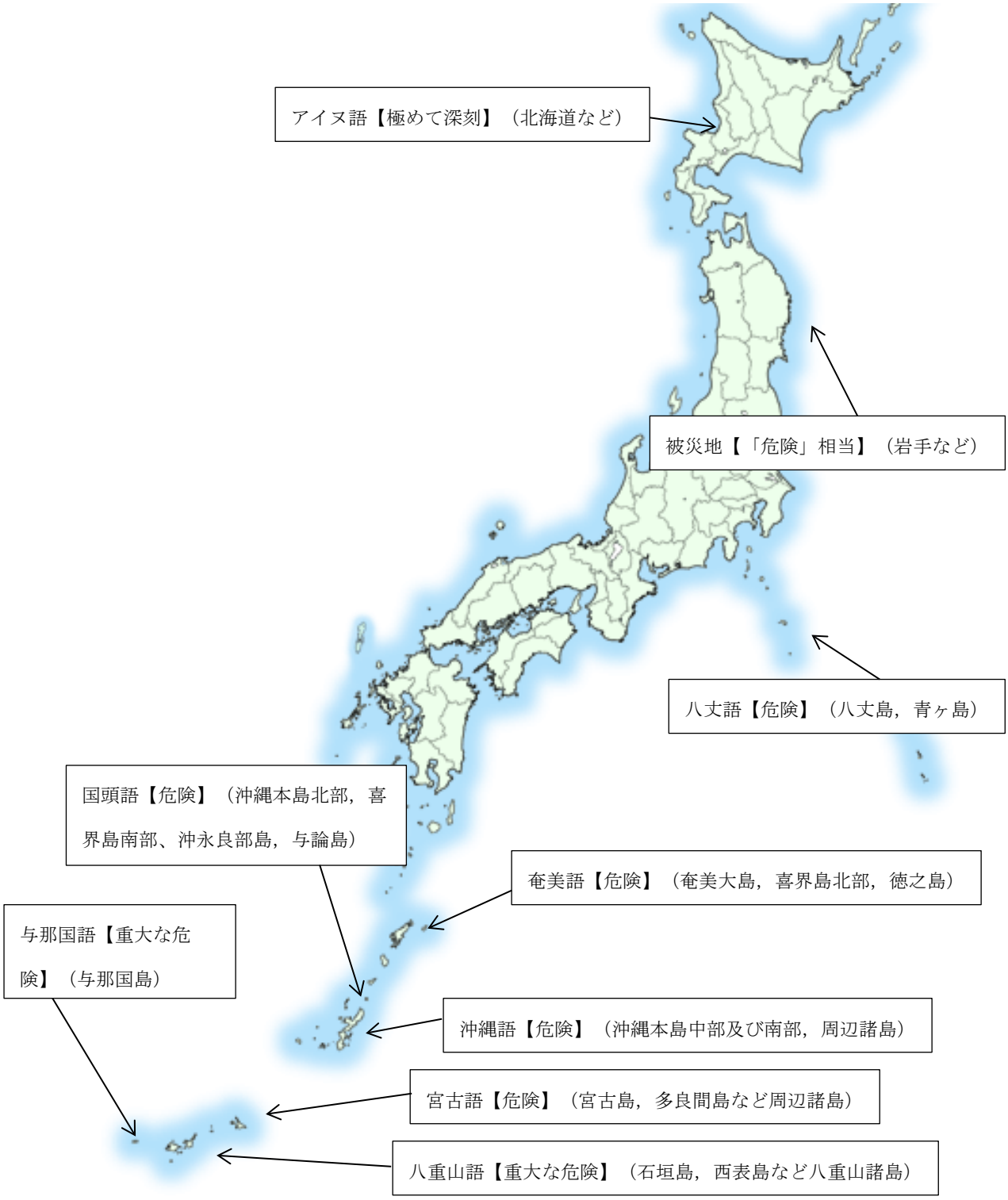
14:00　ブース発表　沖縄県しまくとぅば普及センター、与那国方言辞典編集委員会、与那国中学校、八丈島、言語復興の港、アイヌ文化、与論島、宮古島、沖永良部島、石垣島

15:30　大会宣言・閉会式　田頭　政英、田頭　一、次年度開催地、与那国町教育委員会

15:45　終了

アンケートへの御協力をお願いいたします。

“Atlas of the World’s Languages in Danger”（UNESCO2009）で消滅の危機にあるとされた日本国内の言語　及び東日本大震災の被災地の方言



危機的な状況にある言語・方言に関する文化庁の取組の展開

平 21.2　UNESCO
“Atlas of the World’s Languages in Danger” 公表

平 22・24・25・26 年度
危機状況の実態調査
保存・継承の取組状況調査

平 23.3　東日本大震災
平 23.7　東日本大震災からの復興の基本方針

平 24.6　アイヌ政策推進会議（作業部会報告）

平 25.5　国連・社会権規約委員会最終見解

平 25・26 年度
アイヌ語のアーカイブ化のための調査研究

平 23 年度
危機状況の予備調査
平 24 年度
危機状況の実態調査

平 26.8　国連・人種差別撤廃委員会最終見解　　平 30.8　国連・人種差別撤廃委員会総括所見

平 27.5 文化芸術の振興に関する基本的な方針 ⇒ 平 30.3 文化芸術推進基本計画、令 5.3 同基本計画（第二期）
【Status 分野】平 29.7　中学校学習指導要領解説・国語編　　令元.5　アイヌ施策推進法　令元.9 基本方針

平 27・28・29・30・
令元・2・3・4 年度
○アナログ資料のデジタル化
○アーカイブ作成支援
○人材育成（平 30～令 4）
△アイヌ語体験プログラム（平 30～）

平 27・28・29・30・
令元・2・3・4 年度
○危機言語・方言サミット（27 那覇、28 与論、29 札幌、30 宮古島、1 奄美大島、2 コロナ禍で中止、3 気仙沼（オンライン）、4 沖永良部島（知名町））
○危機言語・方言に関する研究協議会
○記録の不十分な地域の実地調査研究及び啓発

平 25～令 3 年度
○方言の活性化支援

国連・国際先住民言語のための 10 年：2022 年～2032 年

令 5 年度

【Corpus 分野】　○アイヌ語アナログ資料のデジタル化　　○アイヌ語アーカイブ作成支援
○消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業

【Prestige 分野】○アイヌ語体験プログラム　　○危機的な状況にある言語・方言サミット（与那国島大会）
○消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業　　○危機的な言語・方言に関する研究協議会

危機の度合いの判定基準

いろいろな研究者が判定基準を提唱してきたが，
主として現在は，ユネスコ（消滅危機言語に関する専門家グループ）が
2003年（平成15年）3月に発表した「言語の体力測定」（9項目・各6段階）
に基づいて総合的に消滅の危機度は判定されている。

（1）その言語がどの程度 次の世代に伝承されているか。

（2）母語話者数

（3）コミュニティー全体に占める話者の割合

（4）どのような場面で その言語が使用されているのか

（5）伝統的な場面以外で新たにその言語が使用されている場面が
どの程度あるか

（6）教育に利用され得る言語資料がどの程度あるか

（7）国の言語政策（明示的，非明示的態度を問わず）

（8）コミュニティー内でのその言語に対する態度

（9）言語記述の質と量

それぞれの項目はどのような目安で判定されるのか？

(1)その言語がどの程度 次の世代に伝承されているか

5点　子供を含む全ての世代で使用されている。

4点　全ての子供たちが一定の限られた場面で使用している。

3点　親の世代以上で使用されており，子供たちは使用していない。

2点　祖父母の世代以上で使用されており，親，子供の世代は使用していない。

1点　曾祖父母以上の世代で使用されており，ほとんどの話者は使用していない。

0点　言語を使用する者はいない。

(2)母語話者数

※　一般に，どの年代以上が使用できるかを基に地域の人口から推計する。

(3)コミュニティー全体に占める話者の割合

5点　全員が使用している。

4点　ほぼ全員が使用している。

3点　使用している者が大半を占める。

2点　使用している者は少数派である。

1点　使用する者はほとんどいない。

0点　誰も使用していない。

(4)どのような場面でその言語が使用されているか

5点　全ての場面で，全ての目的のために使用されている。

4点　二つ以上の言語が，全ての場面で，全ての目的のために使用されている。

3点　家庭の場面では使用されているが，支配的言語が家庭でも使われ始めている。

2点　限られた場面，幾つかの目的のために使用されている。

1点　ごく限られた場面で使用されるだけで，機能的に使用されることはほとんどない。

0点　どんな場面のどんな目的のためにも使用されていない。

(5)伝統的な場面以外で新たにその言語が使用されている場面がどの程度あるか

5点　新たに生活に加わったどんな場面でも使用されている(テレビ放送など)。

4点　新たに生活に加わったほとんどの場面で使用されている。

3点　新たに生活に加わった一定の場面で使用されている。

2点　新たに生活に加わった幾つかの場面で使用されている。

1点　新たに生活に加わった場面ではほとんど使用されていない。

0点　新たに生活に加わった場面では使用されていない。

(6)教育に使用され得る言語資料がどの程度あるか

5点　確立された書記法と伝統的な文法記述，辞書，文字資料，文学が存在する。行政，教育で使われる書き言葉がある。

4点　文字資料が存在し，子供たちは学校で言語使用を学んでいる。行政の書き言葉では言語は使用されていない。

3点　文字資料が存在し，子供たちは学校でそれに触れる機会がある。言語使用は奨励されてはいない。

2点　文字資料は存在するが，コミュニティー内の限られた者にじか利用されていない。ある者にとって文字使用は象徴的な意味を持つことがある。言語使用は学校教育には取り入れられていない。

1点　書記法が存在することは知られている。それで書かれた文字資料が幾つかある。

0点　書記法は存在しない。

(7)国の言語政策(明示的，非明示的態度を問わず)

5点　国内の全ての言語が保護されている。

4点　言語は保護されているが，主に家庭など限られた場面で使用され，公的には使用されない。

3点　言語に関する保護政策は施行されていない。公的場面では支配的言語が使用される。

2点　政府は支配的言語の使用を勧めている。言語に関する保護政策は施行されていない。

1点　支配的言語のみが公的に使用され，言語は保護や認知すらされていない。

0点　言語の使用が禁止されている。

(8)コミュニティー内でのその言語に対する態度

5点　全員が言語を大切にし，使用が奨励されることを望んでいる。

4点　ほとんどの者が，言語が次世代にも使われることを支持している。

3点　多くの者が，言語が次世代にも使われることを支持している。その他の者は，無関心であるか，言語が使用されなくなることを望んでいる。

2点　言語が次世代にも使われることを支持している者もいる。その他の者は，無関心であるか，言語が使用されなくなることを望んでいる。

1点　言語が次世代にも使われることを支持している者は少数しかいない。その他の者は，無関心であるか，言語が使用されなくなることを望んでいる。

0点　言語が使用されなくなることに関心のある者はいない。全ての者が支配的言語の使用を望んでいる。

(9)言語記述の量と質

5点　分かりやすい文法記述と文字資料が多く存在し，言語資料は常に生産されている。高い質の録音，録画資料が存在する。

4点　良い文法記述が一つあるほかにも，文法資料，辞書，文字資料，文学，それに定期的に更新される日常言語使用の資料が存在する。一定の質の録音，録画資料が存在する。

3点　一定の文法資料，辞書，文字資料が存在し得るが，日常言語使用の資料はない。録音，録画資料は，質の高いものも低いものもあり，文字化されているものやされていないものもある。

2点　限られた言語学的目的に利用可能な簡単な文法記述，語彙表，文字資料が存在するが，総括的なものはない。録音，録画資料は，質の高いものも低いものもあり，文字化されているものやされていないものもある。

1点　簡単な文法記述，短い語彙集，断片的な文字資料が幾つか存在するのみ。録音，録画資料は存在しないか，利用不可能，若しくは全く文字化されていない。

0点　言語記述は存在しない。

平成22年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業　報告書」
（平成23年2月　国立国語研究所）による

※　これらの判定基準を日本においては当てはめると？　⇒　次のシートへ

項目	アイヌ語	八丈	奄美(喜界島)	国頭(名護幸喜)	沖縄(久米島)	宮古(多良間島)	八重山(宮良)	与那国	鹿児島甑島	岩手三陸
(1)伝承	1~3	2~3	3	2	2~3	3	2	3	3	2~3
(2)話者数	ごく少数	1700	5924	83	1330	2133	数百	393	3210	—
(3)割合	1~3	2	3	2	2	3	2	2	2	3
(4)使用場面	2	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3
(5)新場面	1	2	1	0	2	0	1	0	0	1~2
(6)言語資料	2	2~3	2	1	1~2	1~2	1	1	2	2~3
(7)言語政策	3	3~4	2~3	1~3	3	3	2	3	2	2~3
(8)態度	2~3	3~4	2~3	4	4	2~3	2	2~3	1~3	2~3
(9)言語記述	2~4	3~4	2	3~4	2~3	2	2	2	1	2
平均	**1.75~2.63**	**2.1~3.1**	**2.21~2.5**	**2.25**	**2.3~2.8**	**2~2.38**	**1.8**	**1.88~2.13**	1.625~2	2.0~2.8
判定	極めて深刻	危険	危険	危険	危険	危険	重大な危機	重大な危機	極めて深刻？	危険？

平成22年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究」（国立国語研究所）
平成25年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究」（琉球大学）
平成24年度文化庁委託事業「東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（岩手県）」（岩手大学）

消滅の危機にある言語・方言に関する施策の考え方

消滅危機言語の継承のためには、３分野にわたる取組が必要であると危機言語研究者から指摘されている。この３分野に対応した取組をデザインする必要がある。

◆STATUS（公的位置付け）……法律等による公的な位置付け

方言：東日本大震災からの復興の基本方針→中学校学習指導要領解説・国語編

アイヌ語：アイヌ施策振興法、アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本方針

⇒　既に公的な位置付けが示されている状態にある。

◆CORPUS（言語資源）……辞書、文法書、例文集、教材など

方言もアイヌ語も地域差が大きい

→　十分な言語資源の整っていない地域の調査研究が必要

⇒　消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業

アイヌ語アーカイブ関係事業

◆PRESTIGE（威信、社会的イメージ）……社会的に抱かれているイメージ

危機言語・方言の価値と危機的な状況を伝えていく必要

⇒　危機的な状況にある言語・方言サミット

消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業

危機言語・方言に関する研究協議会

令和５年度　危機的な状況にある

言語・方言

サミット　与那国島大会

アイヌ語　沖縄方言　東北被災地　与那国方言　国頭方言　奄美方言　八丈方言　八重山方言　宮古方言

10/14（土） 2023　13:10 ～ 17:45

10/15（日） 2023　10:00 ～ 15:45

与那国町立久部良小学校
体育館及び多目的室
（沖縄県八重山郡与那国町字与那国４０２２）

どなたでも参加可能

特に、消滅の危機にある言語・方言に関心のある方

- 事前申込み不要
- 参加費無料

※ 開催当日、体調に不安のある方は参加をお控えください。

▶ オンライン配信について

オンライン同時配信は行わず、後日、YouTube の文部科学省公式チャンネル（MEXTch）で収録動画を公開予定

主催・共催　文化庁、沖縄県、与那国町、与那国町教育委員会、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所、国立大学法人琉球大学

趣旨

日本には消滅の危機にある言語・方言がいくつもあります。アイヌ語、八丈方言、奄美方言、国頭方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言、そして、東日本大震災の被災地方言など。「危機的な状況にある言語・方言サミット」は、これらの言語・方言の状況や地域の取組事例の紹介、聞き比べや講演、協議などを通して、文化の多様性を支える言葉の役割や価値について共に考え、危機的な状況を改善するきっかけとします。

プログラム

10月14日 土 13:10 - 17:45

13:10 **開会式**
オープニングアトラクション
与那国島の芸能
（ダーナラシ、ミティ唄、ティンバイ）
関係者挨拶

13:45 **基調講演**
『どぅなんむぬい辞典』づくりから
考えた言語継承と研究者の役割
中澤光平（信州大学）

15:00 **休憩**

15:15 **聞き比べ**
アイヌ語、津軽、南部、八丈、奄美、国頭（沖永良部、与論、沖縄本島）、沖縄、宮古、八重山、与那国（祖納、比川、久部良）

16:00 **休憩**

16:15 **表現披露**
アイヌ語、津軽と南部の二人芝居、
与那国語による「キングイ」（狂言）
ドゥングトゥ

17:45 **終了**

10月15日 日 10:00 - 15:45

10:00 **開会**

10:05 **危機方言の現況報告**
山田真寛（国立国語研究所）

10:35 **アイヌ語の現況報告＜収録動画＞**
遠藤志保（北海道博物館）

11:05 **休憩**

11:15 **協議**

12:45 **ブースアピール**

13:00 **休憩**

14:00 **ブース発表** ※
与那国、宮古、与論、沖永良部、八丈、しまくとぅば普及センター、アイヌ、言語復興の港

15:30 **閉会式**
大会宣言、関係者挨拶

15:45 **終了**

※ 会場は多目的室

※ 敬称略
※ 都合により変更する場合があります

基調講演講師 **中澤 光平**

博士（文学、東京大学 2017 年）
与那国町教育委員会嘱託員（2016 ～ 2018 年）
与那国方言辞典編集委員会専門委員（2021 年～）
現在、信州大学人文学部講師
どぅなんむぬい検定 9 級、8 級

問合せ先 与那国方言辞典編纂室（与那国町教育委員）TEL 0980-87-2440

１日目

開会式

オープニングアトラクション

●●●●● オープニングアトラクション ●●●●●

◆ 国指定重要無形文化財「与那国島の祭事の芸能」

日本最西端に位置する与那国島には、いにしえから独特で多彩な芸能が伝承されてきた。各家庭を中心とする冠婚葬祭、とりわけ季節の折々に催される島の行事・祭事で連綿と語り継がれ、歌い継がれ、踊り継がれ、育まれてきた。

◎ダーナラシ（座ならし）

舞台正面に上手からフィ（笛）、ンヌン（太鼓）、ドラガニン（どら鉦）の演者が勢揃いして、会場内外に開演を告げて打ち鳴らす。

◎ミティ唄

新しい年を迎え、祈願が叶え、豊作を賜り、島を挙げて喜び舞い踊り、来年もよりいっそうの五穀豊穣が賜りますようにと、歌い踊り喜ぶ。

踊り手が舞台前に待ち受けた観客 3 人に各々の取りものを差し上げ、舞台と観客が共に一体となり、踊り喜ぶ所作に特徴がある。祝宴の最初に演じられる舞踊として定番の演目。

◎ティンバイ（棒踊り）

勇壮な与那国島の棒踊りは演者、観客とも胸を高鳴らせるものがあり、与那国島の民俗芸能の大きな演目の一つとなっている。与那国の棒踊りは、西暦1700年頃、与那国島に漂着した首里出身の棒術者が伝えたとされている。

当時は人頭税の時代であり、島を支配していた役人は、棒術やその他の技を練ることを、徹底的に取り締まったといわれている。そのような抑制下にありながら、島の人たちは、役人の目をごまかすために、棒術を笛や太鼓、鉦の音に合わせて行うようになり、島の諸行事の際には演技として役人たちを楽しませるようにしたと思われる。

与那国島の棒踊りは、時代の進展とともに、他の島から技を取り入れたり、それぞれの部落で創作しながら発展してきた。なかでも、テインバイ（短刀とカサ）と薙刀の組み合わせで演じられるティンバイは、道具の組み合わせの妙、動きのダイナミックさから最も人気のある演目のひとつである。

１日目

基調講演

「『どぅなんむぬい辞典』づくりから考えた言語継承と研究者の役割」

信州大学講師
中　澤　　光　平

令和 5 年度 危機的な状況にある言語・方言サミット（与那国島大会）
2023 年 10 月 14 日

『どぅなんむぬい辞典』づくりから考えた言語継承と研究者の役割

中澤光平（信州大学）

本発表では，『どぅなんむぬい辞典』に監修として携わり，現在は「与那国方言辞典編集委員会専門委員」の１人として辞典づくりに関わっている立場から，次の点について議論したい。

- 辞典づくりと研究者の役割
- 辞典づくりと言語継承
- 言語継承と研究者の役割

1. 危機言語としてのどぅなんむぬい

1.1 危機言語，危機方言について

UNESCO が平成 21 年（2009 年）2 月に発表した “Atlas of the World’s Languages in Danger”（第 3 版）には，日本国内で下記の 8 言語が消滅の危機にある言語として掲載された。

【極めて深刻】アイヌ語
【重大な危機】八重山語（八重山方言），与那国語（与那国方言）
【危険】八丈語（八丈方言），奄美語（奄美方言），国頭語（国頭方言），沖縄語（沖縄方言），宮古語（宮古方言）

与那国語（与那国方言）は八重山語（八重山方言）と同じく「重大な危機」にある言語と位置付けられている。つまり，国内の他の言語（方言）よりも危機的な状況にあると言える。「重大な危機」という分類の基準など，危機言語（危機方言）については本サミット内でも別に詳しく説明されると思われるため本発表では割愛する。

1.2 与那国島と与那国語（与那国方言）について

与那国語（与那国方言）は沖縄県八重山郡与那国町で話されていることばで，与那国町は与那国島の一島からなり，祖納（そない），比川（ひがわ），久部良（くぶら）の 3 つの集落がある。面積は 28.96 km^2 で，私の出身である東京都府中市（29.43 km^2）とほぼ等しい。人口は 1,691 人（令和 5 年 8 月末日現在。「人口と世帯数」与那国町役場 https://www.town.yonaguni.okinawa.jp/より）。ただし島に住んでいる人が全て与那国語（与那国方言）を話すわけではない。若い世代や島外から移住してきた人は基本的に与那国語（与那国方言）を話さない。

与那国語（与那国方言）のことを与那国語（与那国方言）で「どぅなんむぬい」という（「ぶどぅい」（踊り）が「ぶでぃ」，「ぬぶい」（坂）が「ぬび」のように「うい」はしばしば「い」になるため「どぅなんむに」という人もいる）ため，これ以降は「どぅなんむぬい」と呼ぶことにする。「与

那国島」は「どぅなんちま」となる。

どぅなんむぬい の特徴として，母音が 3 つと少ないことが挙げられる。日本語の e が i，o が u になる（「狭母音化」という）だけでなく，au も u になり（例えば「買う」は「くん」になる），長さの区別もないため，日本国内で話されている言語，方言の中で母音が最も少ない。少ないというと否定的な印象を受けるかもしれないが，少ないからこそ，状況に応じて母音の音色を変えたり，長くしたりがある程度自由にできるということでもあるので，必ずしも悪いとは限らない。また，子音の特徴としては普通のカ行，タ行の他に「固い」カ行，タ行があり，「香」と「肺」，「田」と「舌」では少し音が異なる。「固い」カ行，タ行は無気喉頭化子音あるいは強子音などと呼ばれ，北琉球諸語にはよく見られるが南琉球では珍しく，音素になっているのは どぅなんむぬい くらいである。アクセントは A 型，B 型，C 型の三型アクセント体系であり，A 型は概ね高平調，B 型は概ね低平調で，C 型は A 型に似るが後続するアクセント単位のピッチを下げる（上野 2010）。複合語では 2 単位形が多く見られる（上野 2014，2015）。三型アクセントも 2 単位形も他方言にも見られる特徴ではあるが，三型アクセントは南琉球ではやはり珍しく，2 単位形も他方言より出やすい印象がある（ヨナグニサンの方言名アヤミハビルもアヤミとハビルに分かれる）。

上で挙げた点以外にも，「くぁ，すぁ」といった音（合拗音）が多いこと（くぁっち「菓子」，どぁい「お祝い」など），「ん」で始まる言葉が多いこと（んぎ「髭」，んに「舟」など），琉球では珍しいガ行鼻音（鼻にかかるガ行子音。鼻濁音。[ŋ]）が見られること（あがい「東」，あぐい「クロツグ」など）などがあり，総じて，どぅなんむぬい は南琉球の中では珍しい特徴が多い。語頭のヤ行がダ行になるのは日本の諸言語，諸方言の中では どぅなんむぬい のみに見られる特徴である。このように，他の方言と比べて大きく異なる点が多々あるが，「～できる」を「つん（知る）」で表すこと（うでぃつん「泳げる」など）（ローレンス 2008），（語頭の）ワ行がバ行になること（ばちるん「忘れる」など）など，他の八重山や南琉球のことばとの共通点も見られ，大局的には近隣のことばと同じグループに属すると言える。

2. 言語継承と辞典づくり

本節は中澤（2018）で論じた内容に基づく。

2.1 『どぅなんむぬい辞典』づくりの経緯

与那国町教育委員会では 2015 年から沖縄振興特別推進市町村交付金事業（事業名：与那国方言保存継承支援事業）として，島内の母語話者に言語学を専門とする嘱託員を加えた与那国方言辞典編集委員会を設置し，2017 年度に方言辞典を出版する計画を立てた。2009 年 UNESCO に消滅危機言語として どぅなんむぬい（与那国語）が登録されたように，話者の減少と島外からの人口の流入によって どぅなんむぬい の継承が危ぶまれる状況を，多文化教育の観点からも変えていきたいという趣旨の基に本事業は始まった。途中の空白期間のため出版は 2018 年度に変更となったが，2018 年度に『どぅなんむぬい辞典』の初版が刊行され，2020 年度に改訂版（第 2 版）が発刊された。モデルとしたのは多良間村教育委員会による『つかえる　たらまふつ辞典』（2017 年発行。4000 語程度）だが，収録語数は 2000 語と方言辞典の中ではやや少ない。しかし，原則として見出し語には例文を付けるなどことばの使い方がわかるよう便宜が図られている。

改訂版（第 2 版）の発刊以降も与那国方言辞典編集委員会は続いており，『沖縄語辞典』，『沖縄今帰仁方言辞典』，『石垣方言辞典』，『竹富方言辞典』（いずれも 1 万語以上）など他の大型辞典に並ぶ

方言辞典の発刊に向けて準備が進められている。

2.2　辞典づくりの意義と難しさ

2.2.1　表記の問題

国語と方言の大きな違いは確立された表記体系の有無である。方言はそもそも表記されること自体が少なく，方言の多くは正書法のような規範的表記法がないため，研究者や地元の研究家によって様々な表記がなされており，明確な基準が存在しない。研究者が方言辞典を作成する場合，合理的で統一的な表記を採ろうとする一方（小川 2015），地元の話者の反発を招くこともある。

現在まで出ている どぅなんむぬい の辞典や語彙集を見ると，地元の話者が書いた吉元（1981），池間（1998），池間（2003）でそれぞれ表記が異なっている。どぅなんむぬいで特に問題となるのが「鼻濁音」と「強子音」の表記である。これまでの辞典・語彙集では特にこの鼻濁音と強子音について様々な表記が行われてきた。

(1)　これまでの辞典・語彙集における鼻濁音と強子音の表記一覧

	鼻濁音（「鏡」）	強子音（「家畜」）
『与那国（どなん）のことば』	カカ゜ン	ク゜ァナイムチ
『与那国ことば辞典』	カンカ゜ン	カナイムチ
『与那国語辞典』	カンカ゜ン	かナイムチ
『与那国ことば辞書』	かか゜ん	‘かないむち

『与那国（どなん）のことば』（吉元 1981）では鼻濁音を「カ゜，ギ゜，グ゜」，強子音を「ク゜ァ，キ゜，ク゜，タ゜，テ゜，ト゜」と表記する。

(2) 「鏡」カカ゜ン，白髪ツァギ゜，櫂　ダイグ゜，「家畜」ク゜ァナイムチ，「使う」ク゜ン，「蓋」タ゜

標準語にない特殊な音を全て「゜」で処理しているため複雑な表記になっている。そのため一部で書き分けできていなかったり，表記の混乱も見られる。

(3)　「太陽」テ゜ダン[tidaN]，「引っ張る」テ゜ッキ゜ルン[t’ikk’iruN]，「豆腐」ト゜ブ[tubu]，「一名」ト゜イ[t’ui]（「テ゜」が[ti]と[t’i]，「ト゜」が[tu]と[t’u]に用いられている）

『与那国ことば辞典』（池間苗 1998）は鼻濁音を「ンカ゜，ンキ゜，ンク゜」，強子音を「**カ**，**キ**，**ク**，**タ**，**ティ**，**トゥ**」とゴシックで表記している。

(4)　「鏡」カンカ゜ン，白髪ツァンキ゜，櫂　ダンク゜，「家畜」**カ**ナイムチ，「使う」**ク**ン，「鍋蓋」**タ**

鼻濁音と強子音を別の方法で表記するためわかりやすく，「太陽」ティダン，「引っ張る」**ティ**ッキルン，「豆腐」トゥブ，「一名」**トゥ**イも問題ない。ただし，鼻濁音では常に「ン」ありで書かれている点問題かもしれない。また，ゴシック表記はテキストデータでは入力不可能であり，手書き

でも太さなどで違いを表すのは難しい。

『与那国語辞典』（池間苗 2003）は鼻濁音を「ンカ゜，ンキ゜，ンク゜」，強子音を「か，き，く，た，てぃ，とぅ」とひらがなで表記している。『与那国ことば辞典』とは強子音の表記法が異なる。

(5)　「家畜」かナイムチ，「使う」くン，「蓋」た

強子音をひらがな表記にすることでテキストデータでも入力しやすくなった。しかし，日本語のようにカタカナを外来語の表記などに用いたい場合は，このようなかなの種類による書き分けはできなくなる。

辞典によって，どのように どぅなんむぬいを表記すればよいかについて，一定の指針を示すことができる。『どぅなんむぬい辞典』では，これまでの辞典との関係や継承のことを考え，「かな」による表記（専門的知識がなくてもある程度読めること）を採用した。一方，どぅなんむぬいの発音は日本語（標準語）とは異なるため，かなでの表記には工夫が必要となる。どぅなんむぬいを表記するうえで工夫が必要になるのは鼻濁音と強子音だが，これまでの与那国町教育委員会による発行物（「よなぐに方言カルタ」「与那国語会話カード集」「与那国語簡易辞書」）では鼻濁音を「か゜，き゜，く゜」，強子音を「‘か，‘き，‘く，‘た，‘てぃ，‘とぅ」と表記している。

(6)　「曲がり」まか゜い，「口」‘てぃ

これは『琉球のことばの書き方』（小川 2015）に基づいた表記法で，「゜」と「‘」の 2 種類の記号で鼻濁音と強子音を表記する。特殊な記号を使うものの，一貫してひらがなのみで表記可能であり，テキスト入力にも不都合がなく，手書きでも大きな不便はない（強子音の‘ を縦書き，横書きでどのように示すかという問題があるが，他の記号との重複さえなければ大きな問題にはならない）。

『どぅなんむぬい辞典』でも『琉球のことばの書き方』に基づいた表記法が良いと考え，この表記法を採用した。この表記の利点として，ひらがなのみで表記できるため，日本語のように外来語をカタカナで表記して区別するといったことが可能になることが挙げられる。

(7)　まいとぅ　パンとぅ　んでぃか゜　まちかや。

他にも，擬声語・擬態語や外来語，固有名詞，動植物名などをカタカナで書くといったことも考えられ（原・山田 2017），基本的な部分はひらがなのみで書ける方が便利だと思われる。

ところが，それでも問題がないわけではない。特に，（鼻音の前の）撥音「ん」と促音「っ」，長音「ー」については，人によって「ん」「っ」「ー」を入れるか入れないかが異なる。そのため表記の統一を図るのが困難なことがある。

(8)　「東」あか゜い〜あんか゜い
　　「鶏」みた〜みった
　　「シャコ貝」ぎら〜ぎーら

一個人によって書かれたものではなく，辞典という形を取る場合，このような個人差の扱いが問題となる。記述文法の場合は，話者の言語実態をそのまま記述することになるが，辞典の場合は規範主義的な側面があり，個人差をそのまま全て反映することが最善とは限らない。

2.2.2　語釈の問題

既存の辞典は語彙集としての側面が強く，語釈が簡潔すぎるため誤解を生じるものがあった。例えば「かんび」は「天麩羅」と説明されることがあるが，厳密には衣だけを揚げたもので一般的な天麩羅とは形も用途も異なる。また，「あしぶ」は「汗疹」と説明されているが，実際は汗疹を含む腫れ物一般に使われる（石垣方言や竹富方言と共通する）。「かんび」は「祝い事に供する衣だけ揚げたてんぷら」とより具体的な語釈が必要で，「あしぶ」は逆に「腫れ物」と訳を当てた方が良い（ただし，他に腫れ物を表す「にぶとぅ」との違いなどを示す必要がある）。

一方で，意味の記述は百科事典的であるべきか，文法的特徴以外に文化的背景はどの程度記述すべきかという問題がある。また，個人差や世代差，地域差をどの程度盛り込むべきかという問題も残る。例えば，「あしぶ」と「にぶとぅ」の違いについて，これまでの聞き取りでは多くの話者が「あしぶ」は芯がなく，「にぶとぅ」は芯があり固いと説明するが，その逆と考えている話者もいた。「んに」と「まい」の違いも，前者を「米」，後者を「稲」と説明する話者が多いが，その逆と考える話者もいる。また，「かんぎ」は魚の背びれやその周辺の肉を指すが，若い世代ではそこから「（カジキの）背びれの唐揚げ」→「唐揚げ」の意味変化を生じている。他にも，「いす」と「うんなが」について，久部良では「いす」を海，「うんなが」を外洋と説明するのに対し，祖納では「いす」は「磯」，「うんなが」は「海」と説明する。

2.2.3　『どぅなんむぬい辞典』での解決法

方言辞典も辞典である以上はある程度規範主義に基づくため，正しい語形，意味，用法を提示する必要がある。一方で，どぅなんむぬいの場合は信頼できる規範自体がない状況であり，そのような規範を示す意義が『どぅなんむぬい辞典』にはある。

記述と規範を両立するため，「どぅなんむぬい辞典」では10名の母語話者を委員とする編集委員会で，辞典の語形，意味，用法をチェックする体制を採用した。少数ではあるが複数の母語話者のチェックを通じて，一定の基準を定める点で規範主義を基本としつつ，個人差を含む言語の揺れをある程度反映させる形を採ることで，言語実態に対応させた。

表記について，『どぅなんむぬい辞典』では揺れがある場合，単純な表記を原則として採用した。見出しと異なる発音という反応が多いものについては別形として併記する。例えば，「髪」は「からん」の他に「かなん」とも言うという意見が出たため，これを「からん」に併記することとした。「シャコ貝」は「ぎら」，「ぎーら」両方の表記が支持されたため，単純な「ぎら」を前に，「ぎーら」を後にし，見出しとしては「ぎら」で並べることとした。

語釈について，編集委員会で同意が得られたものを採用する。例えば，「‘かっているん」は「捨てる」の他に「失くす」の意味でも用例が得られ，「‘かってぃ=みぬんでゃー」（失くしてしまったよ）という例文を収録したが，編集委員会では「‘かっているん」は意識的な行為を表すので，無意識に物を失くしたことには言えないという意見だったため，例文とともにこの意味については削除することとした。

2.2.4　残された課題

ところが，上記のような方針を採っても，基準を定めるのが難しい場合がある。例えば，鼻濁音は[ŋ]が長めに発音されるなどもあり，前に「ん」を書いた方が自然だと考える委員が多かったことから，初版では折衷案として あ゛が゜い「東」のような表記を採用した。この表記であれば，[biŋui]「クワズイモ」は〈びぐ゜い〉か〈びんぐ゜い〉かといった話者間の問題は避けられるが，「゛」のよ

うな特殊な表記を減らすなどのため，改訂版では「ん」は一律削除した（例：あがぃ「東」）。しかし，「が゜，き゜，く゜」だけで鼻濁音を表す方法への反発も聞かれる。

『どぅなんむぬい辞典』では原則として全ての項目に例文を付けている。この例文は聞き取り調査によって話者から得たものを基にしている。実際の使用例であるという強みはあるものの，辞典の観点からは若干の問題を含んでいる。

どぅなんむぬいにはいわゆる「係り結び」が見られる。

(9)　かりが゜　かぐん「彼が書く」　　かりが゜どぅ　かぐ（同左）

しかし，「どぅ」がなくても「かぐ」という形（連体形）で言い切ることがある。

(10)　かりが゜　かぐ「彼が書く」（本来は「かりが゜　かぐん」）

(10)の形は実際よく現れるが，従来の記述や年配の話者は係り結びに従った形を例文として示すことが多い。実際には「かぐ」でも「かぐん」でも良いため（両者で若干意味に差はあるようだが），連体形（「かぐ」）で採られた例文を辞書形（「かぐん」）に改めることもできるが，このような作為はどこまで行って良いか。

また，好まれる文体の差もある。文末詞「よ」に当たる言い方として，「でゃー」（～「でぃや」），「どー」などがあるが，個人や地域で頻度が異なる。また，「ゆー」は丁寧さを表す文末詞だが，「ふがらさ」（ありがとう）に「ゆー」を伴った「ふがらさゆー」は敬語として目上に使うべきとする話者もいる一方，（丁寧表現がかえって慇懃無礼に取られるためか）目上に使うべきではないとする話者もいる。文末詞の使い方については現在の編集委員会で議論されているようだが，この点を含め『どぅなんむぬい辞典』では十分に記述できなかった点である。

3.　辞典づくりから考えた言語継承と研究者の役割

発表者は嘱託員として 2016 年 12 月～2018 年 3 月に与那国方言保存継承支援事業に参加し，監修という立場で『どぅなんむぬい辞典』の編集作業に携わった。それまで知識でしか知らなかったどぅなんむぬいが実際に生活の中で使われているのを，与那国島にやってきてから耳にし，言語継承というのを現実の問題として考えるきっかけになった。

発表者はそれまで継承活動には強い関心がなく，辞典の役割も記録にあって，どぅなんむぬいが消滅してしまう前にことばを記録するということを重視する立場だった。それはどちらかというと，どぅなんむぬいを「死にゆく」ことばと見なすものだった。しかし，どぅなんむぬいを現在の，そして未来の生活で実際に使える「生きた」ことばとして継承していくための手段，道具として辞典を作りたいという意見に触れ，辞典に記録以外の役割があるかもしれないと考えなおすとともに，そのためには何をすればよいか，辞典づくりと言語継承との関係についても考える必要が出てきた。

辞典づくりで研究者が果たす（べき）役割は何か。辞典づくりは，完成したものが広く受け入れられるためにも，原則として母語話者の手によることが望ましいと考えるが，研究者の携わるべき作業もある。一つは品詞分類などの分析で，表記の問題と併せ学術的視点が不可欠である。もう一つは例文のチェックで，特に動詞などの場合，他動詞であればどのような項や格助詞を取るのか，例文や語釈で示されているか確認する必要がある。音韻表記についても，研究者よりも言語学的訓

練を積んだ母語話者の方が観察の間違いも少ないと考えられ，研究者はその育成など補助的な形で関与すべきと考える。特に大型辞典であれば，研究者の手で完成させるのには時間も労力もかかってしまう。効率的な辞典づくりは母語話者と研究者の協働が望ましい（麻生ほか 2022）が，基礎となる部分は話者に任せ，研究者は辞典に必要なフォーマットを提供するのが主な役割となる。

しかし，言語継承ということになると，研究者の果たす（べき）役割はもう少しあるように思われる。それは，1 つの絶対的に「正しいことば」というのがあるわけではないという考えを提供することである。辞典のような規範を強く意識するものの場合，「正しいか間違っているか」ということに意識が向きがちである。実際に，作業の中で「規範」や「基準」を作り，それに合わないものを排除しようとする流れが生じることがある。しかし，世代間だけでなく，同じ世代の話者同士でもことばに違いがあるのが普通で，実際に編集委員会でもそれに気づくことが多々あった。そのようなときに，「自分の言葉は間違っているかもしれない」と考える必要はなく，全てがどぅなんむぬいであるというふうに考えられることを伝えるのも研究者の重要な役割である。

このような考えを世代間にも当てはめれば，若い世代のことばもどぅなんむぬいとして認めてよいという考えが出てくる。ともすれば，先輩の話すことばが正しいどぅなんむぬいであり，それのみをどぅなんむぬいとして認めるという考えが（場合によっては研究者を含め）あるように思われる。そのような立場では若い世代の変化は間違っていることになる。そして，そのような間違ったどぅなんむぬいならむしろ使わない方がいい，という考えも出てくる。発表者が継承活動に積極的に関わろうとしなかったのにはこのような問題も 1 つにあり，対立に巻き込まれたくないという思いがあった。「生きた」ことばであれば変化は免れない。どぅなんむぬいを生きたことばとして継承するのであれば，このような変化を受け入れる必要がある。研究者としては，どちらかの立場に肩入れしないにしても，生きたことばであれば変化するのは自然で必然である，ということを説明する必要がある。「文法」には規範文法以外に記述文法という考えがあることは研究者として説明すべきだろう。とはいえ，日本語であっても「日本語の乱れ」としばしば言われるように，変化は「乱れ」と見なされやすいことを考えると，説明も容易ではないかもしれない。揺れや個人差のように，ことばにはそもそも「幅がある」ことへの理解が深まれば，世代差も受け入れやすくなるだろう。実際にどのような変化が起きているかを調べるのも研究者の大事な仕事の一つで，発表者は『どぅなんむぬい辞典』の例文から，どぅなんむぬいの変化について発表したことがある（中澤 2021）。例えば，次のような変化が見られる。

(11) a.　みゃーる=ぶんがら　したたんでぃ　とぅばら**りぬん**〈遠いからすぐに会えない〉
　b.　ぬぬ　むてぃなし　きら**りぬ**〈何のもてなし（も）できない〉
　c.　いーっ。うぬ　あがみてぃ　こー　はんたぬみがら　**かぎらい**　ひるんすやー。うどぅぶさんどー〈あーっ，この子は崖っぷちを走ったりして。あぶないよ〉

「不可能」が「～にぬ（ん）」ではなく「～りぬ（ん）」に（例：‘かってぃらにぬん＞‘かってぃらにぬん「捨てられない」），s 語幹動詞の連用形が「～し」ではなく「～い」になる（例：ぶんかし ‘かってぃり＞ぶんかい ‘かってぃり「放っておけ」）といった変化が起きていて，例文にもそれが見られる。『どぅなんむぬい辞典』は辞典としての規範主義の立場から，このような「新しい」表現はかなり改めたものの，それをすり抜けた例があるということは，このような形式がある程度広まっていることを示唆する。「どぅなんむぬい検定」のような試験でもこのような変化をどう扱うのか考える必要があるだろう。係り結びの消失や Cw- ＞ C-の音韻変化，完了形の「-aN」への単純化（例：「咲いた」さとぅん＞さてゃん）などは伝統的な形式と共存しつつかなり進んでいる。どぅな

んむぬいの 1 万語規模の大型辞典でのこれらの扱い方も考えておかねばならない。辞典づくりは母語話者との協働が欠かせない。今の若い世代はどぅなんむぬいが母語でないことから，辞典は母語話者以外にも理解できる構造の必要がある。研究者は，そのような辞典に必要な情報やフォーマットの意義を謙虚に説明し，母語話者でなければ理解できないような読み物を辞典へと変える手助けをしなければならない。

以上，色々と述べたものの，言語継承について決めるのはその地域の人たち，特に次の世代の人たちである。研究者がいくらその重要性を叫んでも，次を担う世代に響かなければ意味がない。また，どういう形でことばを継承するのか，すべきなのかの立場の違いもある。言語継承にはかなりの真剣さが必要だろう。発表者がどうしてもこの問題で一線を引いてしまうのは，地域の人間ではない，つまり当事者ではないところから，どぅなんむぬいを使おうとしても，どこか「コスプレ」にすぎないような，少々強く言えば「文化の盗用」をしているような後ろめたさを感じるためである。もちろんそれだけではなく，間違いを指摘されたり笑われたりするのではないかという考えがあるためでもある。しかし考えてみれば，外国語を学ぶときも，そういうことを気にしていては上達しない。言語はアイデンティティに直結するため，特に方言の場合，社会的位置づけや日本語との近さ，歴史的背景もあってアイデンティティとの関係がしばしば生々しく感じられるものの，地域のコミュニティと関わる以上，相手のことばに敬意を示しつつ，積極的に地域のことばを使おうとする姿勢はむしろ持つべきかもしれない。

発表者自身は，方言辞典編集委員会の方々ぐらいしかこれまで積極的な関わりはないが，それでも（新）石垣空港の 8 番搭乗口で与那国行の飛行機を待っているときに周りからどぅなんむぬいが聞こえてくると，どぅなんむぬいが今まさに使われていることばだと実感し，どぅなんの世界へと引き込まれていく感覚を覚える。これからどぅなんの人々がどぅなんむぬいについてどのような選択をするにしても，研究者として悔いのない関わり方をすべきだろう。「～くた」や「ふった」，「‘くゆ」の意味など，辞典づくりに必要な調査をしつつも，大局的には辞典づくりを通じてどぅなんむぬいの今後を，与那国方言辞典編集委員会専門委員である研究者の立場から（というと一歩引いた格好にはなるが）見守り，考えて続けていきたい。

参考文献

麻生玲子・セリック ケナン・中澤光平（2022）「日琉諸語の記述言語学を対象としたメタ研究の試み：南琉球諸語の過去 40 年間の語彙研究の評価と課題」『国立国語研究所論集』23: 75–98.
池間苗（1998）『与那国ことば辞典』城野印刷所：沖縄県八重山郡与那国町.
池間苗（2003）『与那国語辞典』与那国町：私家本.
池間苗（2017）『与那国ことば辞典』（第 2 版）与那国町：私家本.
上野善道（2010）「琉球与那国方言のアクセント資料 (1)」『琉球の方言』34: 1–30.
上野善道（2014）「琉球与那国方言のアクセント資料 (3)」『琉球の方言』38: 69–92.
上野善道（2015）「琉球与那国方言体言のアクセント資料 (4)」『琉球の方言』39: 165–193.
小川晋史（編）（2015）『琉球のことばの書き方』くろしお出版：東京.
中澤光平（2018）「方言辞典に求められるもの—与那国方言辞典作成の現場から—」語彙・辞書研究会第 53 回研究発表会（発表資料）.
中澤光平（2021）「『どぅなんむぬい辞典』に見られる現在の与那国方言の諸特徴」「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」令和 3 年度第 2 回オンライン研究発表会.
原聖子・山田真寛（2017）『くい　んだし　あんびんだんぎ』沖縄時事出版：沖縄県那覇市.
山田真寛・ペラール，トマ・下地理則（2013）「ドゥナン（与那国）語の簡易文法と自然談話資料」田窪行則（編）『琉球諸語の言語と文化　その記録と継承』291–324. 東京：くろしお出版.
山田真寛（2016）「ドゥナン（与那国）語の動詞形態論」田窪行則・ホイットマン，ジョン・平子達也（編）『琉球諸語と古代日本語—日琉祖語の再建にむけて』259–289. 東京：くろしお出版.
吉元政吉（1981）『いつまでの残したい与那国のことば』新報出版：沖縄県那覇市.
与那国方言辞典編集委員会（編）（2021）『どぅなんむぬい辞典　第 2 版』八重山郡与那国町：与那国町教育委員会.
ローレンス，ウエイン（2008）「与那国方言の系統的位置」『琉球の方言』32: 59–67.

１日目

危機的な状況にある
言語・方言の聞き比べ

「聞き比べ」テキスト

「聞き比べ」では,

シーン１「初対面での挨拶」
シーン２「大勢を前にしての挨拶」
シーン３「知り合いと会ったときの挨拶」
シーン４「お土産渡し（一人称複数表現)」
シーン５「天気の話（否定疑問)」

を，それぞれの地域の言葉にして語っていただきます。

なお, 必ずしも逐語訳にはこだわらず, 実際に使い得る表現を意識していただきました。そのため、該当する表現がないという場合もあります。また、表記は翻訳者から提出されたものをそのまま使い、相互に対照しやすいように位置の調整を行いました。

＜シーン１：初対面での挨拶＞

① はじめまして。
② ●●●●と申します。
③ お会いできて光栄です。
④ よろしくお願いします。

＜シーン２：大勢を前にしての挨拶＞

① 皆さん、こんにちは。
② 〇〇出身の●●●●と申します。
③ 今日は、ようこそいらっしゃいました。

＜シーン３：知り合いと会ったときの挨拶＞

① こんにちは。
② お久しぶりです。
③ お元気ですか。

④ それじゃあ、お元気で。
⑤ さようなら。

＜シーン４：お土産渡し（一人称複数表現）＞

① これはお土産です。
② ありがとうございます。

③ 今のうちに私たち（＝お土産を持ってきた人も含む）で食べてしまいましょう。
④ 後で私たち（＝お土産を持ってきた人は含まない）でいただきましょう。

＜シーン５：天気の話（否定疑問）＞

① 明日、雨は降らないですか。
② はい／いや　降らないですよ。
③ はい／いや　降りますよ。

【翻訳者・話者】
＜会場登壇分＞

津軽：長谷川　等
八丈島：川上　絢子
沖永良部島：田中　美保子
沖縄本島・本部・座間味　栄一
宮古島：砂川　春美
与那国島・祖納：稲藏　まさの
与那国島・久部良：玉城　孝
南部：柾谷　伸夫
奄美大島：鈴木　るり子
与論島：菊　秀史
沖縄本島・糸満：大城　栄子
石垣島：東大濵　剛
与那国島・比川：崎枝　彦三
アイヌ語・沙流：関根　摩耶

＜シーン１：初対面での挨拶＞

① はじめまして。

② ●●●●と申します。

③ お会いできて光栄です。

④ よろしくお願いします。

津軽（長谷川　等）

① ドモ　ハジメデ　ダキャノー
② ハセガワ　ズ　モンデス
③ ドモ ドモ マミシテラガ　浪岡（ナミオカ）ノ長谷川（ハセガワ）デシジャ
④ ヨロシク　タノメシジャ

南部（柾谷　伸夫）

① マイドサンデアンス
② マサヤノブオドモウシアンス
③ オアイスルゴドァデギデアリガダガンス
④ ヨロシグオネガイイダシアンス

八丈島（川上　絢子）

① ハジメエタシテ
② ワラ　カワカミアヤコ　トイーイタソワ
③ イキョウエテ　コウエイデ　オジャロワ
④ ヨロシク　オネゲイ　シイタソワ

奄美大島（鈴木　るり子）

① ハジメェティ　ウガミンショロー
② 鈴木るり子（スズキルリコ）ッチ　イュームン　ダリョヲスィガ
③ ウガミュン　クトゥヌ　ディキィリャヲティ　イッチャリョヲタ
④ ドーカ　イッチャ　タンミャヲスィガ

沖永良部島（田中　美保子）

① ハジミティ　ディロヤー
② 田中美保子（タナカミホコ）ディ　イャーブン
③ ヲゥガミヌ　クトゥ　ディキティ　アリガタサアヤブンドー
④ ウダヌ　シャーブラー

与論島（菊　秀史）

① ドーカ　パジミティ　フガミャービラン
② ワナー　ユンヌヌ　菊秀史（キクヒデノリ）チャービュン
③ シューヤ　（ウレー）フガマリティ　ミッタン　イショーシャイビュイ
④ ドーカ　ヨロシク　ニゲーシャービラン

沖縄本島・本部（座間味　栄一）

① ハジミティヤーサイ
② 座間味栄一（ザマミエイイチ）　ディ　イチョーイビーン
③ イチャイル　クトゥガ　ディキィティ　カフーシ　ヤイビーン
④ ユタシク　ウニゲーサビラ

沖縄本島・糸満（大城　栄子）

① ハジミティヤーサイ
② ワンナーヤ　大城（オオシロ）ヤイビーン
③ ウンジュトアーティ　イソーサイビーン
④ ユタサルグトゥ　ウニゲーサビラ

宮古島（砂川　春美）

① パズミティヤー
② 砂川春美（スナガワハルミ）　ティードゥ　アス゜
③ イデァイ　プカラスムヌ
④ タカサーシィ　フィーサマチヨー

石垣島（東大濵　剛）

① ハジミティユンラー
② バナー　東大濵剛（ヒガシオオハマツヨシ）デ　アンクユー
③ ワヌサーリ　イカイ　サニシャドゥ　アルユー
④ ドーディン　ミーッシトーンナーラー

与那国島・祖納（稲藏　まさの）

① ハディミティドゥ　アンスヤ
② 稲藏（イネグラ）ヌ　マサノ　ンディ　ンドゥンド
③ トゥバイティ　ンサタンスヤ
④ シカート　タンディド

与那国島・比川（崎枝　彦三）

① ハデミテド　ワルンデサー
② サキダヌ　ヒコゾウド　アイブルドー
③ トゥバイティ　ンサタンスヤ
④ タンディ　イシ　トライヨー

与那国島・久部良（玉城　孝）

① ハジミテヤ
② タマシロ　タカシド　ツァリル
③ トゥバイティ　フガラッシャ
④ タヌムンド

アイヌ語・沙流（関根　摩耶）

① イランカラプテ
② 関根摩耶（セキネマヤ）　セコロ　クレヘ　アン
③ ウヌカラン　ワ　ソンノ　ケヤイコプンテゥ
④ ウアムキリアン　ナ

＜シーン２：大勢を前にしての挨拶＞

① 皆さん、こんにちは。

② ○○出身の●●●●と申します。

③ 今日は、ようこそいらっしゃいました。

津軽（長谷川　等）

① ドーモ　ドーモ　マミシテラガァ
② 浪岡（ナミオカ）ノ長谷川等（ハセガワヒトシ）トイウモンデシジャ
③ キョウハ　ヨグ　キタネシィー

南部（柾谷　伸夫）

① ミナサマガダ、マイドサンデアンス。
② ハヂノヘガデドゴノ　マサヤノブオド　モウシアンス。
③ キョウァ、ヨグオンデアンシタナス。

八丈島（川上　絢子）

① メンナ　オジャリヤロカイ
② ワレワ　八丈島ウマレ　八丈島ソダチノ　カワカミアヤコ
トイーイタソワ
③ ケイワ　オジャッテタモウテ　オカゲサマ

奄美大島（鈴木　るり子）

① ヒンマヤ　ウガミンショーラン
② ウケンソン　イキガチウマレヌ　鈴木るり子（スズキルリコ）
ダリョヲスィガ
③ キューヤー　イッチャガディ　イモッタボチャヤ

沖永良部島（田中　美保子）

① ムールナゲー　ヲゥガミャーブラ
② カゴシマケンヌ　イラブジマ　クンゼーマーリヌ
田中美保子（タナカミホコ）ディ　イャーブン
③ ヒュウワ　ユウ　モーチ　クリヤブタンヤー

与論島（菊　秀史）

① グスーヨー　フガミャービラン
② ワナー　ユンヌヌ　菊秀史（キクヒデノリ）チャービュン
③ シューヤ　イェーポーティタバーチ　トートゥガナシ

沖縄本島・本部（座間味　栄一）

① グスーヨー　チューウ　ウガマビラ
② 本部（モトブ）ヤンバル伊豆味（イズミ）ヌ　座間味栄一（ザマミエイイチ）
ディ　イチョーイビーン
③ チュウヤ　ユーウ　メンソーチャン

沖縄本島・糸満（大城　栄子）

① グスーケー　チューウガマビラ
② 糸満（イチマン）ヌ　マーチンジョウヌ
大城栄子（オオシロエイコ）　ヤイビーン
③ クーヤ　ユーメンソーチキミソーチ　ニヘーディビル

宮古島（砂川　春美）

① ンーナ　ゾウカリ　ウンマ―°
② 宮古島（ミャークズマ）　ンマリヌ
砂川春美（スナガワハルミ）ティドゥ　アス°
③ キュウヤ　ンミャイ　フィーサマイ　タンディガータンディ

石垣島（東大濵　剛）

①　ケーランネーナ　クヨーンナーラー

②　イシャギラカラ　キーダ

東大濵剛（ヒガシオオハマツヨシ）デ　アンクユー

③　キューヤ　オーリタボーンナーラー

与那国島・祖納（稲藏　まさの）

①　ブール　ウヤンタ　ウトゥダンタ　ワルンティラ

②　アヌヤ　ドゥナンヌ　イニグラ　マサノンディ　ンドゥンド

③　スヤ　ワイシ　トゥラシ　フガラサンディ

与那国島・比川（崎枝　彦三）

①　ブール　ワルンデサー

②　アヌヤ　ドナンヌ　ヒガワヌ　サギダ　ヒコゾウド　アイブルー

③　スヤ　ブゥル　ワイシトラシワイ　フガラサー

与那国島・久部良（玉城　孝）

①　ブール　ワルンディサ

②　アヌヤ　クブラヌ　タカシ　ツァリル

③　スヤ　ワイシ　トゥラシー

アイヌ語・沙流（関根　摩耶）

①　ニシパ　ウタラ　カッケマッ　ウタラ　イランカラプテ

②　ビラトリチョウコアパマカプ　ク　ネ　ワ

関根摩耶（セキネマヤ）　セコロ　クレヘ　アン

③　タント　アナクネ　エチコプンテク　ナ

＜シーン３：知り合いと会ったときの挨拶＞

① こんにちは。

② お久しぶりです。

③　お元気ですか。

④　それじゃあ、お元気で。

⑤　さようなら。

津軽（長谷川　等）

①　ヨー　or　オー
②　メジラシナァ
③　マミシテラガァ

④　ヘバ　マミシグシテノ
⑤　マンダノォ

南部（柾谷　伸夫）

①　マイド～
②　シバラグダエナア
③　マメデラッタド？

④　ヘバ、オメデイロァイ
⑤　ヘバナ～

八丈島（川上　絢子）

①　オジャリ　ヤローカイ
②　ヘイテイブリデ　オジャロワノウ
③　ゲンキデ　オジャリヤロウカ

④　ソイダアバ　ゲンキデヨーイ
⑤　イコワヨーイ

奄美大島（鈴木　るり子）

①　ヒンマヤ　ウガミンショーラン
②　マネィマネィ　ダリョヲスィガ
③　ドゥクサティ　モルンニャ

④　ジャッバ　ドゥクサ　シーモレヨー
⑤　マタンキャ　ウガミンショロー

沖永良部島（田中　美保子）

①　ヲゥガミャーブラ
②　ヲゥガミドゥーサアタンヤ
③　ドゥクサ　シューテー

④　ガーシリャー　ドゥクサシューキヨー
⑤　マタヤー

与論島（菊　秀史）

①　（当てはまる表現なし）
②　フガンドゥーソー
③　ゲンキイー

④　ガシラボー　ゲンキシ　フリョー
⑤　ナーヤー

沖縄本島・本部（座間味　栄一）

① ハイサイ
② ナゲーサ　ヤタンヤー
③ チューガンジュウナー

④ アンセー　ガンジュウソーキヨー
⑤ マタヤー

沖縄本島・糸満（大城　栄子）

① ハイサイ　or　ハイタイ
② ミールイサイビンヤ
③ ガンジューヤイビーティー

④ ガンジューサ　シミソーリヨー
⑤ マタヤーサイ

宮古島（砂川　春美）

① ハーイ
② ミードゥ　ムヌヤー
③ パダカリ　ウム

④ アツカー　ガンヅゥ　ガンヅゥ　ウリラ
⑤ マタイラ

石垣島（東大濱　剛）

① クヨーンナーラー
② ミードゥサーナータラー
③ ミシャーンサー

④ アンズッカー　ガンジューシーツキヨー
⑤ マタラー（メ）

与那国島・祖納（稲藏　まさの）

①　トゥバイティ　ンサンスヤ
②　ンサタナ
③　ブル　ンサタナ

④　マタ　ヒルタヨ
⑤　マタ　ヒルンド

与那国島・比川（崎枝　彦三）

①　スンディサ
②　ガンドゥキワタナー
③　ンサタナ（対目下）　or　ガンドゥキ　ワタナー（対目上）

④　マー　ヒレ
⑤　マー　ヒレ（見送る側）　or　マー　ヒルンド（行く側）　or　マー　ンサ

与那国島・久部良（玉城　孝）

①　ヤッ　ンサナ
②　マリ　カイティ　マルカイキ
③　ガンドゥサ

④　マタ　ガンドゥキリヨ
⑤　ヒルエ

アイヌ語・沙流（関根　摩耶）

①　〇〇　へ
②　ウラヌパシ　ナ
③　エイワンケ　ヤ

④　ヤクン　アプンノ　オカ　ヤン
⑤　スイウヌカラン　ロー

＜シーン４：お土産渡し（一人称複数表現）＞

① これはお土産です。

② ありがとうございます。

③ 今のうちに私たち（＝お土産を持ってきた人も含む）で

食べてしまいましょう。

④ 後で私たち（＝お土産を持ってきた人は含まない）で

いただきましょう。

津軽（長谷川　等）

① ワンツカダバッテ　モラッテケ

② ワイハ　ナンモイインダバナァ　ドウモ　ドウモ

③ 今（イマ）スグ　オランドデクッテマレバ　ドンダァ

④ ナモナモ　今（イマ）マンダダキャ　食（カ）ネジャ　アドガラ　モラウネ

南部（柾谷　伸夫）

① コレァ、オミヤゲデアンス。

② アリガトウゴザイアンシタ。

③ コノマンマ、オランドデ、クッテシマルベシ。

④ アドガラ、オランドデイダダギアンスガラ。

八丈島（川上　絢子）

①　コリャヨウ　ミヤゲデ　オジャロワ
②　オカゲサマ

③　マンノウチニ　ワレンセイラデ　アガッテ　シマイヤロゴン
　　オメエモ　ドウシニ　アガロゴン
④　アトシャン　ワレンセイラデ　チョウダイシイタソワ

奄美大島（鈴木　るり子）

①　クッラ　ミャーゲェッグァ　ダリョヲッドー
②　ウブクリ　ダリョヲン

③　ナマヌ　ウチ　ワーキャシ　ミショロヤ
④　アトラシ　ワーキャシ　イタダキャーロ

沖永良部島（田中　美保子）

①　ウリワ　ミヤーギ　ディロドー
②　シッタイ　ミヘディロドー

③　ナマヌウチニ　ワチャムールシ　カマーヤー
④　アトゥニティ　ワチャムールシ　モロラーヤー

与論島（菊　秀史）

①　ウリュー　フリャー　ミャーギエービュン
②　トートゥガナシ

③　ナマヌキン　ウランマージン　ワーチャシ　コロン（持参者＝同年代）
　　ナマヌキン　ウレーインマージン　ワーチャ　タバーリラン（持参者＝目上）
④　アトゥカラ　ワーチャシ　タバーラリュンドー

沖縄本島・本部（座間味　栄一）

①　クリ　チトゥー　ヤサ
②　ニヘーデービル

③　ナマヌウチニ　ワッターシ　ウチカマナ
④　アトゥカラ　ワッターシ　クワチィースサ

沖縄本島・糸満（大城　栄子）

①　ウレー　マージャンドウ
②　イッペー　ニヘーディビル

③　ナンカイ　ワッターヤ　カムシェーマシドー
④　アトカラ　ンガーターヤ　カマヤー

宮古島（砂川　春美）

①　クリャー　タビ　カラヌ　ツトゥヤイバ
②　タンディガータンディ

③　ンナマ　ドゥーター　ンーナシー　ファーディ
④　アトゥカラ　ファット—

石垣島（東大濱　剛）

①　クレー　チゥトゥドゥ　ヤルドー
②　シカイトゥ　ニファイドー

③　ナマヌチン　バンダーシ　ファーラー
④　アトゥカラ　バンダーシ　フォイキーヨー

与那国島・祖納（稲藏　まさの）

①　ウドゥ　ミャンキ゜
②　アラグ　フガラサ

③　ナイヌバスニ　バンタシ　ブール　ハインダギ
④　アトゥガランキ　バヌシ　フーエ

与那国島・比川（崎枝　彦三）

①　ウ　ミヤギヨー　トゥイワリヨー
②　ミヤギド　アラグ　フガラサー

③　ナイニビ　バンタシ　ハイマチドゥ
④　アトゥガラ　バンタシ　トゥイマチ　アラヌナ

与那国島・久部良（玉城　孝）

①　ウヤ　ミヤンギド
②　ミャンギ　フガラッサ

③　ナイニビー　バンタシ　ハイマチ
④　アトガラ　バンタシ　ハインダギヨ

アイヌ語・沙流（関根　摩耶）

①　タンペ　エチコレ　ナ
②　イヤイライケレ

③　タネ　アエ　ロー
④　オカケ　タ　チェ　クス　ネ

＜シーン５：天気の話（否定疑問）＞

① 明日、雨は降らないですか。

② はい／いや 降らないですよ。

③ はい／いや 降りますよ。

津軽（長谷川 等）

① アス アメ フネダナァ

② ン ナンモ フネビョン

③ ン ニャ フルヤァ

南部（柾谷 伸夫）

① アシタ、アメァフラネノガイ？

② ンダ、フラネェヨッテェ。

③ インヤ、フリアンスヨ。

八丈島（川上 絢子）

① アケロヒワ アメワ フリンノウカ？

② オウ フリンナカ

③ イヤ フロワヨー

奄美大島（鈴木　るり子）

①　アチャヤ　アミィヤ　フリョヲランカイ

②　オー　フリョヲランド
③　アイ　フリョヲッド

沖永良部島（田中　美保子）

①　ナッチャー　アミ　フランカヤー

②　アーイ　フランドー
③　イン　フユンデャー

与論島（菊　秀史）

①　アッチャー　アミャー　プヤビランヌイ

②　オー　プヤビランドー
③　アーイー　プヤビュンドー

沖縄本島・本部（座間味　栄一）

①　アッチャー　アミ　フラニ

②　イー　フランド
③　イー　フインドー

沖縄本島・糸満（大城　栄子）

①　アチャーヤ　アミ　フランガヤー

②　フーウ　アメー　フイブランドー
③　フーウ　アミ　フイビンドー

宮古島（砂川　春美）

①　アツァ　アミァ　ッファンビャー

②　アシ　ッフアン
③　アラン　フス゜ドゥス

石垣島（東大濵　剛）

①　アッツァー　アーミ　フォーヌカヤ？

②　オー　フォーヌ　ハズドー
③　アーイ　フォー　ハズドー

与那国島・祖納（稲藏　まさの）

①　アタヤ　アミ　フラヌカヤ

②　ヨイ　フラヌンド
③　アラヌン　フルンド

与那国島・比川（崎枝　彦三）

①　アッタヤ　アミヤ　フラヌンディヨー

②　マァ　フラヌンディヨ
③　スースル　アミ　フルンスヤ

与那国島・久部良（玉城　孝）

①　アッタヤ　アミ　フラヌン

②　マー　フラヌンド
③　アラヌン　フリドゥキル

アイヌ語・沙流（関根　摩耶）

① ニサッタ　ソモ　アプト　アシ　ルウェ

② ソモ　アプト　アシ　ルウェ　ウン

③ アプト　アシ　ルウェ　ウン

１日目

危機的な状況にある
言語・方言の表現披露

アイヌ語による表現

日常会話、歌　など

関根　健司

関根　摩耶

方言二人芝居

こっただ面接

ある 訳(げ) ァねえ

～津軽弁と南部弁の面接バトル勃発!!～

作・演出　　柾谷　伸夫

男１：長谷川　等（津軽弁）

男２：柾谷　伸夫（南部弁）

音響：木下　勝貴

●●●● 与那国語によるキングイ（狂言） ドゥングトゥ ●●●●

◆ 国指定重要無形文化財「与那国島の祭事の芸能」

日本最西端に位置する与那国島には、いにしえから独特で多彩な芸能が伝承されてきた。各家庭を中心とする冠婚葬祭、とりわけ季節の折々に催される島の行事・祭事で連綿と語り継がれ、歌い継がれ、踊り継がれ、育まれてきた。

◎キングイ（狂言） ドゥングトゥ

―あらすじ―
節祭（シティ）の御馳走をたくさん準備したところ、刺身にする魚がないので、公民館長から魚取りを言いつけられた。若者 2 人はサンニヌ台の釣り場に行き、釣糸を投げたら大きな魚がかかった。喜びいさんで大きな魚を手繰りあげる様子をドゥングトゥの拍子に合わせて、ユーモラスに演じている。

ドゥングトゥ

勇市

我どぅ　前黒島ぬ勇市ゆー。

公民館長親ぁ　来んでぃ云でぃわいび　行てぃ拝み来りゃ　節踊きるんでぃ

御馳走や まーしく支度きゃんぁ　刺身魚どぅ 不足ありゃ　行てぃ取い来んでぃ

言でぃわいび　いるぁ　私ぁ’一人しやなるんでぃ思まぬび　請舛ぬ庄市ば

頼みてぃ　行る考いんでぃどぅ　歩ぐよ、兄貴　兄貴。

庄市

おー。何や　勇市、夜んとぅん明らぬたきでぃうぐしぶんすやすや、勇市。

勇市

たんでぃどぅ歩ぐよ、教育長ぁ来んでぃ　言でぃわいび　行てぃ拝み来りゃ

方言サミットきるんでぃ　御馳走や　まーしく支度しゃんぁ刺身魚どぅ

不足ありゃ　行てぃ取い来んでぃ　言でぃわいび、　いるぁ　私ぁ

’一人しやなるんでぃ思まぬりゃ、

たんでぃ、今日や　兄貴　難儀きーとぅらしひり、たんでぃ。

庄市

今日や　ならぬん。どぅどぅあいどぅぶる。

勇市

たんでぃ　兄貴　難儀きーとぅらしひり、たんでぃ。

庄市

いた、　弟ぬ事どぅありゃ、’聞どぅきらりる、磯や何処や。

勇市

サンニダティ。磯(いす)や此処(うま)。

庄市

磯(いす)や此処(うま)—。何(ぬ)や勇市(ゆういち)、此処(うみ)　黒(ふる)—ちちてぃ、目玉返(みんだにきら)してぃ居(ぶ)るむぬや。

勇市

兄貴(すなてぃ)。高声(たがむぬい)きんな、此(う)どぅ　魚(いゆ)んでぃ言(ん)どぅ。

庄市

此(う)—。全部(ぶーる)　取(とぅ)りるかや。

勇市

おう。兄貴(すなてぃ)。　尻(んび)どーんでぃ言(ん)たや、縄(んな)ぬ尻(んび)、さぶらぎりよ。

庄市

’人人間(とぅにんぎん)でぃ　言(ん)どぅば、　此処(うま)さ、くまさ。

勇市

なんぐるんどぅ　なんぐるんどぅ　なんぐるんどぅ。尻(んび)どー。

（ここで庄市は勇市の尻に手を入れて投げ落とす）

勇市

尻(んび)どーんでぃ言(ん)たや　縄(なー)ぬ尻(んび)ど、さぶらぎりんでぃ言(ん)たる、我(あ)ぬどぅ海(うんなが)き

返(きら)し捨(かってぃ)るな　こー。

此臭(くーかだい)いきんに、大魚(うぶいゆ)ぬ臭(かだ)いきるんそ。

庄市

まーむにど、あるばん。

勇市

今(ない)や　頭(みんぶる)どーんでぃ　言(ん)たや、鰓(ちむぶに)んき指(うゆび)たたくみてぃ　頭咬(みんぶるぶい)さぐりよ。

庄市

’人人間(とぅにんぎん)でぃ　言(ん)たや、　此処(うま)さ、くまさ。

（ここで大きな魚が掛ったので、ドゥングトゥを読みながら魚を引き上げる。）

ドゥングトゥの文句

アダニバナ　ドゥヌマチ　クンキャダティ　サンニダティ　イチクダリ
　ナナクダリ　マーサティニ　ウリティドゥバ　バチチドゥゥバ
イトゥマギティ　タグティドゥバ　タニカギティ　ウルシュタバ
　ウブイユヌ　プイサガイ　イタユガヌ　サシユガヌ　マーウイナギィ　ミヤラビヌ
フイサグル　チチサグル　タマナラス　ドゥーキントゥ　ミヤラビトゥ　デリマチャ
ンガ　イルシキンニ　カンガイミリバ　ミヤラビドゥ　バーヌマチ　ハイシキニ　カ
ンガイミリバ　ダンディン　クンディン　ウブイユドゥ　バーヌマチ　ウブイユドゥ

勇市

　おー、おー、大魚(うぶいゆ)どー。

　魚(いゆ)どーんでぃ　言(ん)たや、魚(いゆ)の頭(みんぶる)どぅ咬(ぷ)いんでぃ言(ん)たる、我(あ)が゜頭(みんぶる)どぅ咬(ぷ)な　こー。

　之見(くーんに)んに、大魚(うぶいゆ)どぅあんそ。

庄市

　でぃー　勇市(ゆういちう)此(いゆいび)ぬ魚少(いび)たてぃ　少(いび)たてぃ　刺身(さしみちー)切(は)い　食いてぃどぅ　行(ひ)らりる。

勇市

　あー　出来(なら)ぬん。早(はや)ぐ家(だ)んき。

庄市

　うんに言(ん)でぃわらぬき、兄貴(すなてぃ)だぁさどぅあるゆんがら、少(いび)たてぃんでぃや。

勇市

成(な)らぬん、村(むら)にや　我達(ぼんた)どぅ待(ま)てぃぶるゆんがら、

持(む)てぃ行(いてぃ)てぃ、全員(ぶーる)とぅ　一緒食(まどぅんは)りるりゃ、でぃー　家(だ)んき。

歌　ミルク節

1　思た事叶し　願いぬちでなし
　　むにに　たとぅららぬ
　　今日ぬ　嬉にしや

２日目

危機方言の現況報告

国立国語研究所
山田　真寛

危機方言の現況報告

山田真寛｜国立国語研究所・准教授

1. 日本の消滅危機言語

世界には 6,000 から 8,000 の言語があると言われていて、そのうちの半分が「いま何もしなければ」今世紀中になくなってしまう消滅危機言語と言われています。ユネスコが発表した世界の消滅危機言語地図には、日本の８つの言語が掲載されています。アイヌ語、八丈語、6 つの琉球諸語ですが、言語・方言という呼び方に関係なくほとんどの地域言語が「いま何もしなければ」なくなってしまうと考えられます。今の祖父母の世代がじぶんの子どもたちに地域言語を使うのをやめ、彼らは聞いて理解できるけれど流暢には話せないパッシブバイリンガルとして育ち、その子どもたち（今の孫の世代）は地域言語を使えない。このように世代間継承が断絶した言語が、「いま何もしなければ」なくなってしまう消滅危機言語と呼ばれます。そのような地域言語を地域の人たちが残したいと思ったら、どうすればいいのでしょうか。

2. 継承保存と記録保存

言語を「残す」「保存する」と言うとき、少なくとも「記録保存」と「継承保存」の２つがあり、どちらも並行して進めるべきだと私は考えています。「言語が消滅する」とは、その言語を使う人が１人もいなくなってしまうことなので、今は減る一方の話者数を増やすことができれば、生きた言語を残すことができます。親から子へ、子から孫へ、世代を超えて言語を継承することで

言語を残すので、これを継承保存と呼びましょう。記録保存はその名のとおり、言語の記録資料によって言語を残します。博物館に言語が保存されるイメージです。一般的に、文法書、辞書、談話資料の 3 点セットがあれば、その言語の全体像がわかり、それらが質・量ともにじゅうぶんであれば、言語が消滅した後でも復活させられると言われています。今回はこのうち、消滅危機言語を保存するために最初に取り組まれることが多い、辞書について取り上げてお話します。

3. 辞書はデータベース

「辞書」と聞いて思い浮かべるのは、印刷された辞典でしょうか。最近は音声を聞くことができるオンライン辞典を使う人も多いと思います。言語学者がつくる辞書は「語彙データベース」で、紙の辞典もオンライン辞典も、このデータベースを利用してつくるのが一般的です。語彙データベースは機械が処理できるエクセル表のようなもので、各語の情報が列ごとに記録されています。実際の発音を録音した音声ファイルを、該当する語・用例に紐づけるのもデータベースの役割です。与那国町教育委員会辞書編纂室が作成した『どぅなんむぬい辞典』は、このような語彙データベースを利用してつくられました。方言辞典をつくるときに一番のお手本になる辞典なので、特徴を詳しくお話します。

4. どぅなんむぬい辞典のすごいところ

大きく分けて、辞書そのもの（4.1~4.3）と辞書のつくり方（4.4~4.6）に特徴がありま

す。

4.1. 基礎語彙が採録されている

「手」などの身体部位名や「母」などの親族名称、日常的な動作や状態など、多くの言語が（外来語ではなく）伝統的な語彙として持っていると考えられる「基礎語彙」が採録されています。「方言辞典」と呼ばれるものには「標準語と大きく違うことばを集めて、標準語と似ていることばは載せない」方針でつくられたものが少なくありません。そのような「俚言（りげん）集」はおもしろいのですが、その言語の全体像を理解する助けにはなりません。また基礎語彙に限らず、すでに辞典が刊行されている近隣方言や共通語と似ている語も、採録されていなければ「似ている」ということすらわかりません。

4.2. 辞典として最低限の情報が各項目で網羅されている

語、発音、品詞、アクセント型、語の意味、用例とその訳が、すべての項目に記載されています。また動詞には活用クラス、語源がわかっている語には語源と歴史的変化も記載されています。

4.3. 音声が記録されている

すべての語と用例を発音した音声が記録されています。これらを一つずつインターネット上に保管しその場所（URL）データベースに記載することで、音声付きのオンライン辞典として

公開することができます。調査時の録音を使うよりも、編集委員会などで検討して確定させた語と用例のリストを用意して一気に読み上げて録音する方が効率がよいです。

4.4. 島の人と研究者が協働してつくられた

与那国町教育委員会は言語学者を辞典作成専門の嘱託員としてフルタイムで雇用してどぅなんむぬい辞典をつくりました。先に述べた特徴すべてを満たす辞典をつくるには、調査の段階から研究者と協働するのが合理的です。その過程で島の人は言語学的な知識と技術を身につけることもでき、現在の与那国方言辞典編纂室の職員は言語学者の支援なしに事業を継続しています。

4.5. 編集委員会

職員として採用された言語学者は辞典作成を支援しましたが、実際の作業の多くは辞典編纂室メンバーや編集委員が行い、毎月開催する編集委員会が収集した語と用例の検討を続けてきました。

4.6. すばやく何回も出す

2015 年に辞典作成を始めて 2019 年に初版を刊行しました。大辞典の出版を目指しているためその後も編集委員会を継続し、2021 年には最初の改訂版を刊行しました。「長い時間をかけて」「完璧な辞典を」「1 回だけ出版する」という方針は、消滅の危機に瀕した

言語には適当ではありません。時間をかけている間も話者数は減る一方なので、継承保存のためには、方言を話せるようになりたい人が使える辞典をできるだけ早く用意することが重要です。また「完璧な辞典」というものはどんなものなのかわかりません。言語の性質上、語数は無限に増やすことができますし、数が多いほど間違いが見つかる確率も上がるので、語数を増やしつつ改訂を重ねるのが合理的です。オンライン辞典なら印刷費をかけずに何度でも更新することができます。

5. 一緒につくりましょう

近年の方言辞典は、与那国町のように地域の人たちと研究者が協働で作成することが最も合理的だと考えられています。研究者は辞典作成を支援しますが、実際に方針を決めたり手を動かしたりするのは、地域の人たちです。どぅなんむぬい辞典の最初の編集委員長、米城惠さんは「土の匂いがする辞典をつくりたい」とおっしゃっていました。今回のお話を聞いて実際にどぅなんむぬい辞典をご覧になれば、与那国島の土の匂いを嗅ぐことができると思います。

国立国語研究所の危機言語プロジェクトは、これまで地域の人たちと協働して方言辞典をつくってきました。与那国町のように常駐職員として雇用できなくても、地域の人と研究者が協働して辞典をつくることができます。日琉語諸方言を対象に整備された基礎語彙リストを利用できますし、危機言語プロジェクトのウェブサイト（kikigengo.ninjal.ac.jp）を利

用して音声付きオンライン辞典を公開することもできます。語彙データベースは国語研リポジトリに登録することで、作成者や著者、利用条件などを明示して、ほぼ恒久的に貴重な地域の言語資源を保存・公開することができます。リポジトリで公開することで、オンライン辞典を危機言語プロジェクトだけでなく自治体や近隣の大学などのウェブサイトで公開することも可能です。方言辞典をつくろうとしている方、すでに作り始めている方はぜひご連絡いただき、協働のしかたからご相談させていただければと思います。

２日目

与那国中学校の成果報告

与那国町立与那国中学校

＊「アイヌ語の現況報告」は、後日、期間限定で、インターネットで公開する予定です。

２日目

協議
「方言辞典とかるた作りに取り組む」

協議
「方言辞典とかるた作りに取り組む」

進　　行

山田　真寛（国立国語研究所）

パネリスト

中澤　光平（信州大学）

田頭　政英

（与那国方言辞典編集委員会委員長）

村松　稔（与那国町教育員会）

上地　艶子（与那国町教育員会）

譜久嶺　マリサ（与那国町教育員会）

協議「方言辞典とかるた作りに取り組む」

与那国町は与那国方言保存継承支援事業の一環として、研究者と協働して 2019 年に『どぅなんむぬい辞典』を刊行し、2021 年に最初の改訂版を刊行しました。現在も大辞典の出版を目指して作業を継続しています。辞典刊行までにもかるたやどぅなんむぬいラジオ体操の制作、童謡の採譜など、様々な取り組みを行ってきました。事業予算の確保のしかたから辞典作成前の取り組みについてお聞きしたあと、どうして辞典作成事業が始まったのか、どのようにして研究者との接点が生まれたのかなどをお聞きします。また現在も定期的に開催されている辞典編集委員会での検討会について、このやり方のいいところ、大変だったこととその解決方法などについてもお聞きします。

２日目

ブース発表

ブース発表

ブースＡ:沖縄県しまくとぅば普及センターの取組

狩俣繁久

ブースＢ：与那国町の取組

与那国方言辞典編集委員会

ブースＣ：与那国中学校の取組

与那国町立与那国中学校

ブースＤ：八丈町の取組

八丈町教育委員会

ブースＥ：言語復興の港の取組

言語復興の港

ブースＦ：アイヌ文化紹介

関根真紀

ブースＧ：与論町の取組

菊秀史、川上明日香

ブースＨ：宮古島での取組

藤田ラウンド幸世、謝敷勝美

ブースＩ：沖永良部島での取組

田中美保子ほか

ブースＪ：石垣島での取組

半嶺まどかほか

ブースＫ：方言絵本の読み聞かせ

＊多目的室における各ブースの位置は、会場にて御確認ください。
　ブースＫは体育館に設けます。

)

２日目

大会宣言

令和５年度
危機的な状況にある言語・方言サミット（与那国島大会）
大会宣言

田頭 政英
田頭 一

お爺ちゃんと、くりゃ（孫の島名）の会話

1（孫）　あさ、ふっかかん　あまてぃどぅ　あたんがぇ。
あさ、くたんでぃあいわらぬん？。

1(孫)　お爺ちゃん二日間、アッという間だったね。お爺ちゃん疲れはない?。

2（お爺ちゃん）　クリャ　むるとぅまどぅん　サミットきらり
あらぐしゃなん。チマムニや　がっくに、
すむてぃびらぎてぃ　なるむぬあらぬん
すむてぃいらぬん。
‘かいつるとぅぬ　まにきるくとぅ。

2(お爺ちゃん)　クリャ　会場の皆さんと一緒にサミットが行われたことは
大変うれしいよ。方言は学校で本を開いて習うものではない。
教科書はいらない。使える人の話をまねることだよ。わかった？。

3（孫）　うぉ、がってぃん。あさムニ　まにきるくとぅさ。
あさかにどぅでぃ　ないぶさん。

3(孫)　はい、分かった。爺ちゃんの方言をまねることだね、
爺ちゃんよりうまくなりたいな。

4（お爺ちゃん）　　あなぁてぃゆ　んだん　ばりぶんさ
だんきひぃ　どぅぐり
（孫）【孫が、お爺ちゃんの口述を繰り返す】
あなぁてぃゆ　んだん　ばりぶんさ
だんきひぃ　どぅぐり
4(お爺ちゃん)　　なんだ？お前も疲れているだろう、
ここを済んだら家に帰って休みなさい。

5（お爺ちゃん）　　あい？　ぬんでぃんだ、あさ　まにどぅきぶるな。
いた　クリャ、‘たんとぅし大会宣言
はたみんがしきんだぎ
5(お爺ちゃん)　　ん？、何言ってる？、そうか、言ったことをまねしているのか。
よし、クリャ　二人で大会宣言しよう。

大会宣言

①　んぬん、すんでぃ　わいとぅらし　しかとぅ
ふがらさんでぃうまりる。
①　昨日、今日とお越しくださいまして誠にありがとうございました。

②　くにぬながに　だぶぐいあまいぬムニか゜ないぬだたいしや
みぬんきなるんでぃ　んだりぶん
②　国内では8か所以上で言語・方言が消滅危機にあると言われております。

③　ばんたや　うやんたが°　　‘かいわたるムニぬなり
しかとぅ　‘かい　ちでぃひるん

③　私たちは先達が永い暮らしの中で培った言語文化をしっかり語り継ぎます。

④　方言サミットが°　ちまぬ　ながん、ふがにわるムニかい
ちでぃひるとぅんた　また、むにぬ
すむてぃくるばすしかとぅ　たみなるん

④　方言サミットが内外に住む方言を継承して行く者にとってまた、方言辞典を編む上で、大変、参考になります。

⑤　ないぬば　ムニちでぃひるんす　まびん　とぅばしひるん。
ばぬや　どぅぬどぅがら　はなしき　ういがし　ひるん。

⑤　これを機に方言の継承になお一層、弾みがつきます。わたしたちは積極的に活動してまいります。

⑥　いりあか°い・はいにち、せかいぬ　んまにんぶるばん　ばんたや
ちまくとぅばちでぃ　ぬでぃみんき　んかい
なりぬスディカルイムヌばたしひるん。

⑥　東西南北、世界のどこに住んでいようが私たちは方言の継承を目指して言語文化のタスキを渡していきます。

⑦　んだん・あぬん　くぬむらん　‘てぃてぃ　うむっつぁん
ちまくとぅば。はいぬちまがらムニぬ　うさいだぎ
すんぎひるくとぅ　くいたがぐ　かがたいひるん

⑦　君も私もこの町も、聞いて楽しい方言。南の島から方言励行の機運を盛り上げていくことを声高らかに宣言します。）

令和５年度

危機的な状況にある言語・方言サミット（与那国島大会）

資　料　集

令和５年１０月

文化庁国語課

100-8959　東京都千代田区霞が関 3-2-2

沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課しまくとぅば普及推進室

900-8570　沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

与那国町

907-1801　沖縄県八重山郡与那国町字与那国 129

与那国町教育委員会

907-1801　沖縄県八重山郡与那国町字与那国 129

日本国
最西端之地
与那国島
渡海ノ西崎ノ
潮ハ荒ノ波ノ之
与那国ノ美童ノ
岩礁ノ積ノ之